

かえるのうた

20230131

エリー



目次

本文	1
あとがき	2

本文

山間の狭い田んぼで生きる蛙は悲しみに満ちていた。
毎夜、仲間と鳴きあっていたのに、今日は彼の声しか聞こえない。
昼間、悪戯な人間の子どもが、仲間を捕まえて尻にストローを刺して、膨らませて次々
破裂させていったからだ。

ねぼすけの彼は穴のなかで何も知らずグーグー寝ていた。

外に出て、飛び散った仲間の肉片を見て、事情を悟った。

グワ、グワ、グワ、グワ

ゲロゲロゲロゲロ

グワグワグワ

彼は繰り返し鳴きつづけた。

生き残った彼を探しに人間の子どもが来ることを願った。

復讐に燃えたぎる彼の声を聞いた人間の子どもは、「夏だねえ」と笑っていた。

あとがき

わたしの文は「意味はわかるけど、文章から感情が伝わらない」と娘によく言われる。
そう友だちに話した。

「どういう意味？」と聞かれる。

作曲と演奏の話の例えとして即興で前ふりを考える。

「この前ふりなしで悲しみと怒りを伝えられるのがプロの歌手。わたしも文章から感情が伝わる作家になりたい」と説明する。

そして「600字物語のネタになるのでは？」と思いつく。

ワードじゃなくてメモアプリだから20字にできない。

手書きすると疲れるから数えず載せます。

かえるのうた

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
